

「水環境フェア 2007 in 四万十」が開催されました!!



↑PRパネル展示の様子

清流通信読者の皆様こんにちは！
今回は8月5～7日に四万十市で開催された、「水環境フェア 2007in 四万十 ～四万十川で地球環境の未来を見つけよう！～」のレポートです。
このイベントは平成3年より毎年8月に全国の一級河川のある都市などで行われており、昨年の一級河川のある都市などで行われており、昨年の松江市につづいての開催となりました。（来年は帯広市で開催予定）主催は水環境フェア 2007in 四万十実行委員会（四万十市、高知県、国土交通省、四万十川自然再生協議会）。

良い天気となった6日午前10時、四万十ロイヤルホテルにおいて分科会「川の自慢話」「若者の考える明日の川づくり」が開催され、南は沖縄、北は北海道から参加した小学生や高校、大学生などの様々な団体の皆さんが、日頃の活動の様子や、明日の川づくりについて発表や話し合いをしました。

「若者の考える～」の会場では、（川を保全するためには）どんな活動が必要か、という設問に対して、川に関心を持ってもらうきっかけ作りが大事だという意見などがあり、またそれに対してどんな川とのかかわり方（イベント）があるのかという設問も出され、カヌーやいかだ下り、エビ捕りや、捕った魚を食べるなどの答えが。最後にコーディネーター役の大谷工科大学教授から、「今言ったことを皆さんが主体的にやって欲しい。そうして得た出会いや感動を大切にしてください！」とのお話がありました。



↑オープニングを飾った一條太鼓



↑澤田実行委員長の開会の挨拶



↑家庭から考える川づくり



↑全国から参加している様々な団体の活動報告や若者達の活発な意見交換の様子



↑パネルディスカッション

午後からは四万十市立文化センターで分科会「家庭から考える川づくり」や、歌手で教育学者のアグネス・チャンさんから世界の水事情などのお話、そして「四万十川で地球環境の未来を見つけよう！」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネラーからは「子供達というよりは大人の教育も必要だ」「ネットワーク作りを」「川を育むために山の手入を」「治水も環境もどちらも大事」など、水環境を守るための様々な意見などが出され、会場いっぱい訪れた人々も熱心に耳をかたむけていました。

翌朝は、四万十川橋（通称赤鉄橋）周辺河川敷の清掃活動も行われ、県外から参加している方や、近くに住民の方々などが一緒になって汗を流していました。参加された皆様、本当におつかれさまでした！！



↑7日早朝に行われた四万十川河川敷の清掃の様子と、予想以上に集まったゴミの山